

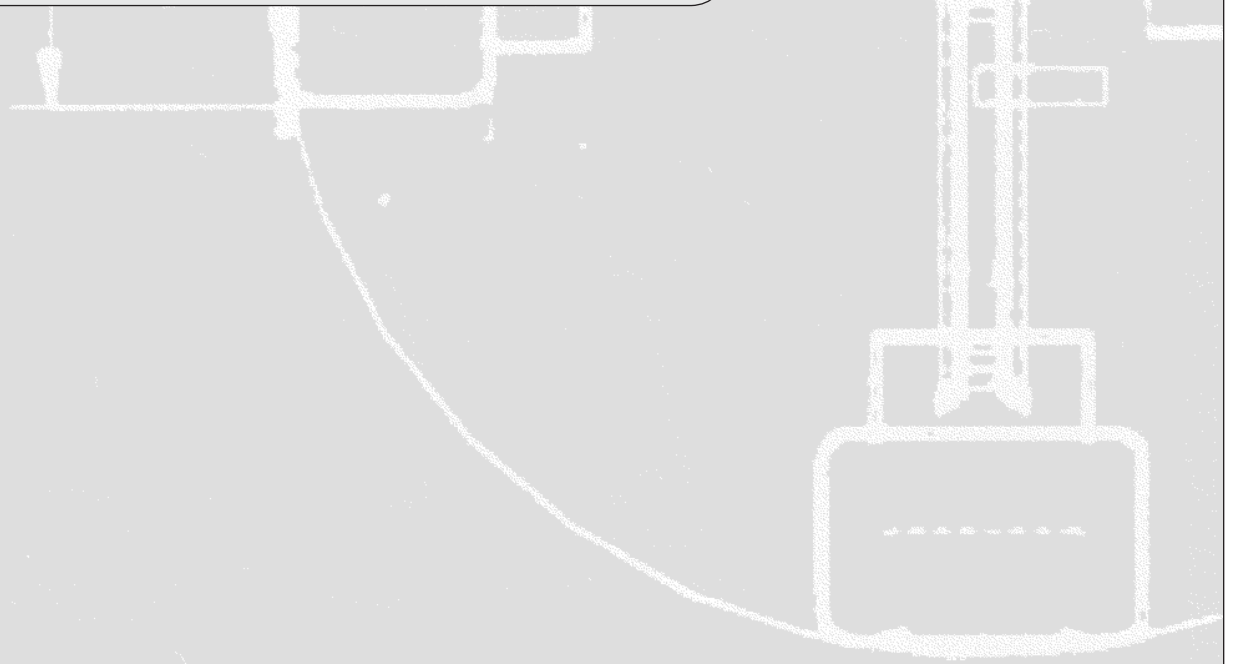
# Genie®



## 操作説明書

First Edition  
Eighth Printing  
Part No. 33547JA

## Superlift™ Contractor



---

## 重要

本機械を操作する前に、操作説明書の安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。トレーニングを受け、認定されている担当者のみ機械を操作することが許されています。質問がございましたら Genie Industries までご連絡ください。

---

## 目次

	ページ
安全規則 .....	1
説明 .....	6
操作前の点検 .....	7
機能テスト .....	9
作業場の点検 .....	13
操作手順 .....	14
積載荷重量表 .....	16
ステッカー .....	18
輸送およびリフトの手順 .....	22
仕様 .....	23

---

## Contact us:

Internet: <http://www.genielift.com>  
e-mail: [techpub@genieind.com](mailto:techpub@genieind.com)

---

Copyright © 1995 Genie Industries

初版： 第8刷 2006年3月

「Genie」および「Superlift Contractor」は米国およびその他の国における Genie Industries の登録商標です。

♻️ 再生紙使用 L

Printed in U.S.A.

# 安全規則



## 警告

本説明書の操作指示と安全規則に従わない場合は、重傷または死に至ることがあります。

## 操作を行う必須条件：

- 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。
  - 1 危険な状態での使用を避ける。**
    - 次のセクションに進む前に、安全規則を理解し、心得てください。
    - 2 常に操作前の点検を行う。
    - 3 使用する前に常に機能テストを行う。
    - 4 作業場を点検する。
    - 5 決められた用途にのみ機械を使用する。
- 製品使用説明書と安全規則 - 安全マニュアルおよび操作説明書と機械ステッカーをよく読み、理解し、それに従う。
- 従業員の安全規則と作業場所の規則をよく読み、理解し、それに従う。
- 適合する全ての法規をよく読み、理解し、それに従う。
- 使用者が安全な機械操作のための適切なトレーニングを受けている。

安全規則

**落下の危険**

機械を人員運搬用の作業台または踏み台として使用しないでください。

積荷用アタッチメントの上に立たないでください。

マストに登らないでください。

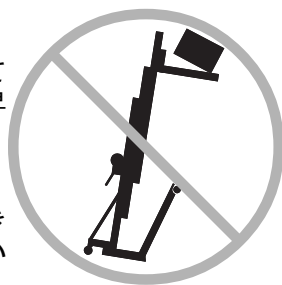
**転倒の危険**

安全装置（装備されている場合）と脚部が完全に下がりロックされていること、およびキャスターが完全に地に付いていることを確認してから、積荷を上げてください。

脚固定ピンが適切に脚とベースを通して挿入されていない場合は、積荷を上昇しないでください。

機械に積荷しているとき、あるいは上昇しているときは、脚固定ピンを外さないでください。

機械がしっかりとした平らな地面に設置されている場合以外は、積荷を上昇しないでください。



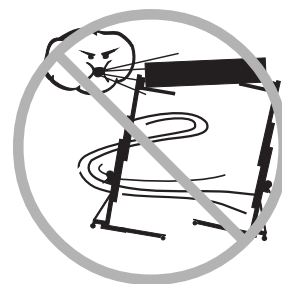
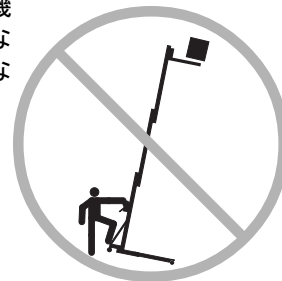
操作を始める前に、作業現場に急に低くなっている場所、くぼみやもりあがった箇所、障害物、不安定な地面、滑りやすい箇所、またその他の危険な状態がないことを確認してください。

積荷用アタッチメントが機械へ適切に固定されていない場合は、積荷を上昇しないでください。

ブロックを使用して、機械を水平にしないでください。

位置の微調整を行う以外、積荷が上昇した状態で機械を移動しないでください。

強風や突風の中で機械を操作しないでください。強風の状態では、積荷の表面積が増加すると、機械の安定性が低下します。



強風の場合、機械がしっかりと支え線で留めてある場合を除き、積荷を上昇したままの状態にしないでください。

最大積載荷重量を超えないでください。積載荷重量表のセクションを参照してください。

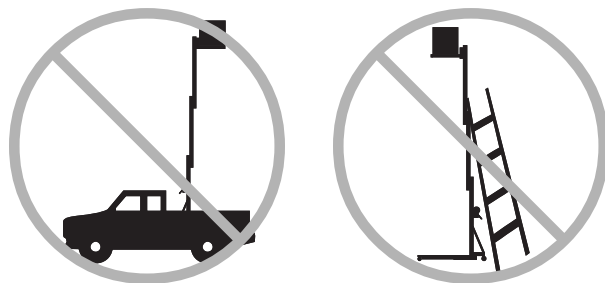
脚を折りたたんだ状態で機械を移動する場合、障害物のある場所や平らでない場所を避けてください。

機械の安定性や構造に大きくかわる部品を、重量や仕様の異なるものと取り替えないでください。

機械に水平力あるいは側面荷重を与える原因になるので、固定されている荷やぶら下がっている状態の荷を上下しないでください。

## 安全規則

機械どの部分にもはしごや足場を組まないでください。



移動中または移動する可能性のある表面、もしくは車両上で機械を使用しないでください。

## 衝突の危険



作業場において、頭上に障害物もしくは他に危険なものがないことをチェックしてください。

周りに人がいたり障害物がある場合は、機械を後方に傾けないでください。

傾斜地で機械を移動する場合は、常識的な判断と手順をもって行ってください。

機械と輸送車両が平らな地面にある場合以外、機械を車両に載せないでください。機械を積む場合は、適切な手段で行ってください。

## リフトの危険

機械に積荷する際および機械を傾ける場合には、適切な手段で行ってください。

積載取扱いアタッチメントを取り付けるとき、または取り外すときは、適切な手段で行ってください。

## 感電の危険

この機械は絶縁されておらず、電流に接触した場合や近づいた場合は電流から保護されません。

機械が通电している電線に接触している場合、機械に近づかないでください。通电している電線の電気が止められるまで、作業員は絶対に機械に触れたり操作したりしないでください。

適用する法規および次の表に従って、電線および電気機器から安全な距離を保ってください。



電圧 範囲	安全を確保するため 最低距離
メートル	
0~300V	接触を避ける
300V~50KV	3.1
50KV~200KV	4.6
200KV~350KV	6.1
350KV~500KV	7.6
500KV~750KV	10.7
750KV~1000KV	13.7

マストの動きや電線の揺れやたるみを考慮し、強風および突風に注意してください。

溶接するときには機械にアースを接地しないでください。

## 安全規則

## 落下の危険

折りたたみ脚など、手や指をはさむ可能性のある場所には触れないでください。

積荷が適切に積荷用アタッチメントの中心に配置されていない場合は、積荷を上昇しないでください。

積荷用アタッチメントに積荷が適切に固定されていない場合は、積荷を上昇しないでください。

積荷を上げるとき、機械の下に立たないでください。また、他の作業員がいないことを確認してください。

積荷の下に人がいないこと、また障害物がいないことを確かめてから、積荷を下げてください。



積荷の下に立たないでください。安全ブレーキ(搭載する場合)により、柱をロックする前に積荷が30~91 cm下がります。

ロックプレートが解除されているときは、安全装置をしっかりと抑えてください。抑えていないと安全装置が落下します。

固定ピンを取り外すときは、脚をしっかりと抑えてください。抑えていないと脚が落下します。

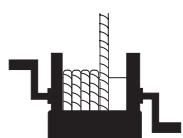
ブレーキがロックされるまで、ウィンチハンドルをしっかりと抑えてください。積荷によってウィンチハンドルが回らなくなると、ブレーキがロックされます。

## 機械の故障の危険



損傷もしくは故障している機械は使用しないでください。

ケーブルに磨耗、ほぐれ、よじれ、あるいは損傷がある場合は、機械を使用しないでください。



キャリアッジが完全に下がっている状態でウィンチドラムにケーブルが4巻き以下しか残っていない機械は、使用しないでください。

毎回機械を使用する前に、操作前の点検を完全に行ってください。

すべてのステッカーが適切な位置にあり、文字が読める状態であることを確認してください。

操作説明書が完備され、文字が読める状態で、機械の保管場所に保管されていることを確認してください。

ウィンチには潤滑油を差して常に適切な状態に保ってください。詳細については、Genie Superlift Contractor 部品およびサービスマニュアルを参照してください。ブレーキ表面にオイルや油脂がつかないように注意してください。

支柱の表面にはどのような種類の潤滑剤も使用しないでください。

## 人体への傷害の危険

ケーブルを握らないでください。

## 誤った使用による危険

積荷している機械からは、絶対に離れないでください。権限のない人が適切な指示なしに機械を操作すると、危険な状態を招く恐れがあります。

## ステッカーの説明

Genie 製品ステッカーは、識別しやすいよう、下記のようなシンボル、色別コード、および警報言語を使用しています。



安全警報シンボル-作業員にケガの危険があることを示します。ケガや死亡の危険を避けるために、このシンボルのあとに示された全ての安全警告に従ってください。



**危険**

赤-差し迫った危険があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至ることがあります。



**警告**

オレンジ-危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至ることがあります。



**要注意**

安全上の警告シンボルを伴った黄色-危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は小さなケガから中程度のケガを負うことがあります。

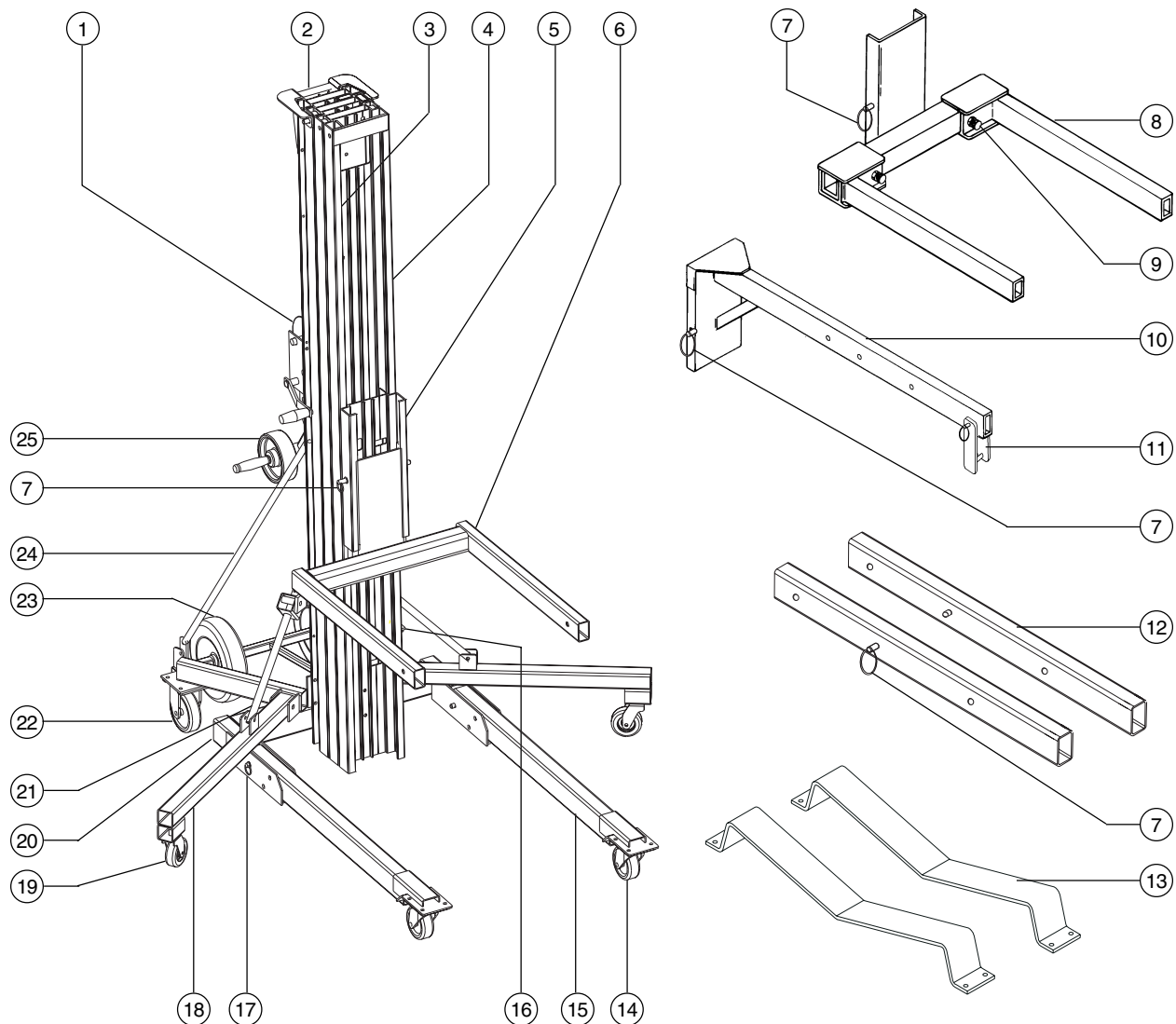
**要注意**

安全上の警告シンボルがない黄色-危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は機械が故障することがあります。

**注意**

緑-操作情報またはメンテナンス情報を示します。

# 説明



- |                      |                  |                             |
|----------------------|------------------|-----------------------------|
| 1 ウィンチ               | 10 ブーム           | 19 安全装置キャスター                |
| 2 リフト ブラケット          | 11 シャックル         | 20 ベース                      |
| 3 ケーブル               | 12 延長フォーク        | 21 安全装置締め金                  |
| 4 マスト                | 13 パイプクレードル      | 22 ブレーキ付きベース回転/<br>ロックキャスター |
| 5 キャリッジ              | 14 脚回転キャスター      | 23 輸送ホイール                   |
| 6 標準フォーク             | 15 脚             | 24 マスト締め金                   |
| 7 積荷用アタッチメント<br>固定ピン | 16 固定バー          | 25 積載ホイール/ステアリング<br>ハンドル    |
| 8 調節可能フォーク           | 17 脚固定ピン         |                             |
| 9 スナップピン             | 18 安全装置 (搭載する場合) |                             |



# 操作前の点検



## 操作を行う必須条件：

- ☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。
  - 1 危険な状態での使用を避ける。
  - 2 常に操作前の点検を行う。  
次のセクションに進む前に、操作前の点検についてよく理解してください。
  - 3 使用する前に常に機能テストを行う。
  - 4 作業場を点検する。
  - 5 決められた用途にのみ機械を使用する。

## 原則

操作前の点検とは、各シフトの前にオペレータが目で見に行う点検です。この点検は、オペレータが機能テストを行う前に、目で点検して異常な箇所を見つけることを目的としています。

次のページのリストを参照し、それぞれの項目をチェックしてください。

もし損傷もしくは工場出荷時の状態から何らかの異変が発見されたら、機械に故障中の貼り紙をつけて使用を停止してください。

機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づいて行ってください。修理が終了したら、オペレータは機能テストに移る前に再度操作前の点検を行ってください。

## 操作前の点検

## 操作前の点検

- 操作説明書が完備され、文字が読める状態で、機械の保管場所に保管されていることを確認してください。
- すべてのステッカーが、文字が読める状態で所定の位置にあるか確認します。「ステッカー」のセクションを参照してください。

以下の部品もしくは部分が損傷していたり、変更されていないか、きちんと設置されていないか、なくなっている部品がないかチェックしてください。

- ウィンチと関連部品
- ベース部品
- レッグ
- 安全装置とラッチプレート (搭載する場合)
- マスト柱
- 荷台固定バー
- ケーブル錨
- ケーブルと滑車
- ホイールとキャスター
- 積荷用アタッチメント
- ナット、ボルト、他の締め具
- ケーブル (ねじれ、ほぐれ、磨耗)

機械全体を通して下記をチェックしてください：

- へこみや損傷
- 腐食や酸化
- 溶接や機械部品の割れ
- 機械を構成するどの部品も欠けておらず、適切なファスナーやピンが正しい位置にしっかりと締められた状態になっていることを確認します。
- キャリッジが完全に下がっているとき、ウィンチドラムにケーブルが4巻き以上残っていることを確認します。

# 機能テスト



## 操作を行う必須条件：

本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

**3 使用する前に常に機能テストを行う。**

**次のセクションに進む前に、機能テストについてよく理解してください。**

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

## 原則

機能テストは、機械を使用する前に故障を見つけることを目的としています。オペレータは、指示された手順に従って、全ての機能をテストしてください。

故障している機械は決して使用しないでください。故障が見つかった場合は、故障の貼り紙を付けて作業を中止してください。機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づいて行ってください。

修理が終了したら、オペレータは機械を使用する前に、再び操作前の点検、続いて機能テストを行ってください。

機能テスト

## 機能テスト

- 1 障害物がなく、平らで安定している場所でテストを行ってください。

## セットアップ

### 安全装置を装備していない機械

- 1 脚固定ピンを取り外し、脚を下位置へ下降させます。ピンを脚とベースを貫いて挿入します。



### 安全装置を装備している機械

- 1 安全装置のロックプレートを押下げて外し、安全装置をキャスターが完全に地に付くまで下降させます。安全装置が下位置にロックされていることを確認します。
- 2 脚固定ピンを取り外し、脚を下位置へ下降させます。ピンを脚とベースを貫いて挿入します。



## 積荷用アタッチメント

### 標準フォークおよび標準フォークオプション

- 1 フォークをキャリッジの内側に配置します。
- 2 固定ピンを挿入します。



### 標準フォーク付き積荷作業台

- 1 標準フォークに荷台をしっかりと置きます。

### パイプクレードル

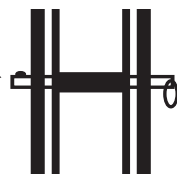
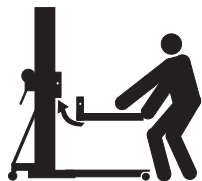
- 1 フォークにパイプクレードルを装着します。ファスナーがしっかりと締まっていることを確認します。

### 延長フォーク

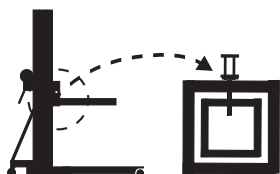
- 1 各延長チューブをフォークへスライドさせます。
- 2 位置を調整し、固定ピンを挿入します。

### 調節可能フォークおよび調節可能フォークオプション

- 1 フォークをキャリッジの内側に配置します。
- 2 固定ピンを挿入します。



- 3 フォークを任意の幅に調節し、スナップピンが正しく挿入されていることを確認します。

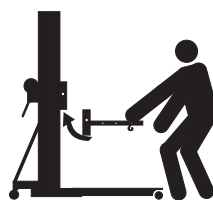


### 延長フォーク

- 1 各延長チューブをフォークヘスライドさせます。
- 2 位置を調整し、固定ピンを挿入します。

### 標準ブーム

- 1 ブームをキャリッジの内側に配置します。



- 2 固定ピンを挿入します。
- 3 リフトシャックルをブームの穴に取り付けます。

### 調節可能フォーク付き積荷作業台

- 1 フォークの幅を58.4 cm に調節します。
- 2 調節可能フォークに積荷作業台を置きます。

### パイプクレードル

- 1 フォークにパイプクレードルを装着します。ファスナーがしっかりと締まっていることを確認します。

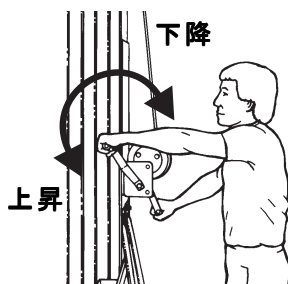
## 機能テスト

## 一定速度でのウィンチ操作のテスト

1 積荷用アタッチメントを取り付けます。

2 ウィンチハンドルをしっかりと抑えてマストの方向へ回転させ、キャリッジを上げます。

◎ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに操作できなければなりません。



3 ウィンチハンドルをしっかりと抑えてマストと逆の方向に回転させ、キャリッジを下げます。任意の位置まで下がったら、ブレーキをセットするため、ウィンチハンドルをマスト（積荷の上昇）の方向へ 1/4 回します。

◎ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに操作できなければなりません。

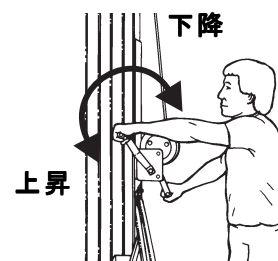
## 低速/高速でのウィンチ操作のテスト

1 積荷用アタッチメントを取り付けます。

2 ウィンチを低速にシフトします。

3 ウィンチハンドルをしっかりと抑えてマストの方向へ回転させ、キャリッジを上げます。

◎ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに操作できなければなりません。



4 ウィンチハンドルをしっかりと抑えてマストと逆の方向に回転させ、キャリッジを下げます。任意の位置まで下がったら、ブレーキをセットするため、ウィンチハンドルをマスト（積荷の上昇）の方向へ 1/4 回します。

◎ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに操作できなければなりません。

5 ウィンチを高速にシフトし、ステップ 3 と 4 を繰り返します。

## マストシーケンスのテスト

1 積荷用アタッチメントを取り付けます。

2 ウィンチハンドルをしっかりと抑えてマストの方向へ回転させ、キャリッジを完全に上げます。

◎ 結果：キャリッジが前方のマストセクションの一番上まで上昇し、各マストセクションに順に続きます。

3 キャリッジを完全に下げます。任意の位置まで下がったら、ブレーキをセットするため、ウィンチハンドルをマスト（積荷の上昇）の方向へ 1/4 回します。

# 作業場の点検



## 操作を行う必須条件：

本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。

- 1 危険な状態での使用を避ける。
- 2 常に操作前の点検を行う。
- 3 使用する前に常に機能テストを行う。

### 4 作業場を点検する。

次のセクションに進む前に、作業場の点検についてよく理解してください。

- 5 決められた用途にのみ機械を使用する。

次の危険な状態に注意し、避けてください：

- ・ 急に低くなっているところ、くぼみ
- ・ 地面の盛り上がりや床の障害物
- ・ 破片
- ・ 頭上の障害物、高圧送電線
- ・ 危険な場所
- ・ 傾斜面
- ・ 不安定な地面、滑りやすい地面
- ・ 機械による負荷に耐えられない表面
- ・ 風や天候の状態
- ・ その他起こる可能性のある危険な状態

## 原則

作業場を点検することによって、オペレータは作業場が安全に機械を操作するのに適しているかどうかを判断することができます。作業場の点検は、作業場に機械を移動する前に行わなければなりません。

オペレータは作業場で起こりうる危険を心得たうえ、機械の移動、セットアップ、運転時に注意を払い、危険を避けてください。

# 操作手順



## 操作を行う必須条件：

- ☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施する。
  - 1 危険な状態での使用を避ける。
  - 2 常に操作前の点検を行う。
  - 3 使用する前に常に機能テストを行う。
  - 4 作業場を点検する。
  - 5 決められた用途にのみ機械を使用する。

## 原則

操作手順のセクションでは、機械操作の手順を各機能ごとに説明しています。安全規則や操作説明書の指示に従うことはオペレータの任務です。

機材を持ち上げることに以外に機械を使用することは危険です。

2人以上のオペレータが同じ勤務時間内で異なる時間帯に機械を使用する場合、すべてのオペレータが資格を有し、安全規則や操作説明書の指示に従わなければなりません。すなわち、オペレータが交替するたびに、次のオペレータが機械の操作前に、操作前点検、機能テスト、作業場点検を行ってください。



## セットアップ

障害物がなく、平坦で安定している場所を選択してください。

機能テストセクションのセットアップ手順に従ってください。

## 積荷の上昇/下降

- 1 積荷を積荷用アタッチメントの中心に置きます。積載荷重量表のセクションを参照してください。
- 2 積荷が積荷用アタッチメントに固定されていることを確認してください。
- 3 ウィンチハンドルをしっかりと押さえてマストの方向へ回転させ、積荷を上げます。ケーブルがドラム上に不均等に巻かれないようにしてください。
- 4 ウィンチハンドルをしっかりと抑えてマストの反対の方向へ回転させ、積荷を下げます。任意の位置まで下がったら、ブレーキをセットするため、ウィンチハンドルをマスト（積荷の上昇）の方向へ  $1/4$  回します。



## 積載した機械の移動

作業場で機械を移動する場合、積載していない状態が最も理想的です。積荷が上昇している状態での移動は、積載および積み下ろしの際は制限すべきです。積荷が上がっている状態で機械を動かす必要がある場合、以下の安全規則を心得え、従ってください。

- ・ 現場の地面が平らで、障害物がないこと。
- ・ 積荷が積荷用アタッチメントの中心に配置されていること。
- ・ 積荷が積荷用アタッチメントに固定されていること。
- ・ 急な発進または停止は避けてください。
- ・ 積荷をできるだけ低い位置にして移動させてください。
- ・ 機械や積荷に人が近づかないようにしてください。

## 使用後の注意

機械を保管する場合は、セットアップ手順を逆の順序で行ってください。

固い平らな地面で、風雨にさらされない、障害物や人や車の往来のない、安全な格納場所を選んでください。

# 積載荷重量表



## 必ず従うこと：

- ☑ 積荷を適切な位置に置かなかった場合、重傷を負ったり死に至る可能性があります。
- ☑ 上げようとしている積荷が、積載中心点の最大積載荷重量を超えていないことを確認してください。積載荷重量表のセクションを参照してください。

**警告** 転倒の危険。機械の最大積載荷重量を超えた積荷を上げると、重傷を負ったり死に至る場合があります。

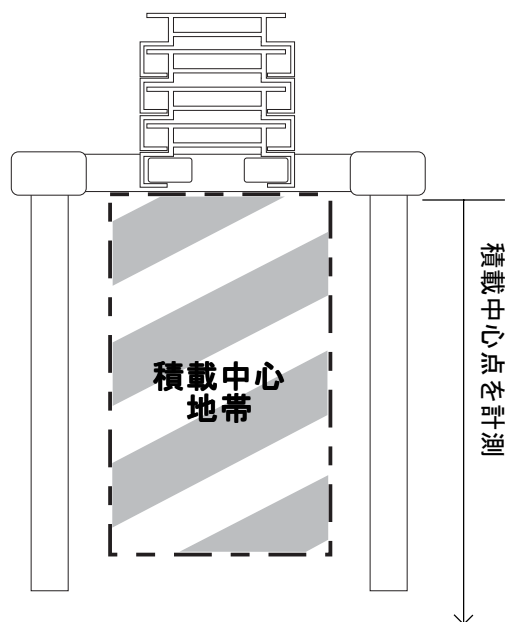
- ☑ 積載中心点は積荷の均衡点（重力の中心）として定義され、積荷中心地帯内になければなりません。

**警告** 転倒の危険。積荷が適切に積荷中心地帯に配置されていないと、重傷を負ったり死に至る場合があります。

## フォーク

### 積荷配置手順

- 1 積荷の重量と積載中心点の場所を決定します。
- 2 キャリッジに最も近い積荷から積載中心点を計測します。
- 3 次ページの表を参照し、現在のフォークの位置において、機械が積載重量を持ち上げることができるかどうかを判断します。
- 4 できるだけキャリッジに近くなるように、フォークに積荷を配置します。
- 5 積載中心点が積載中心地帯内になるように、積荷を置きます。
- 6 積荷をフォークに固定します。



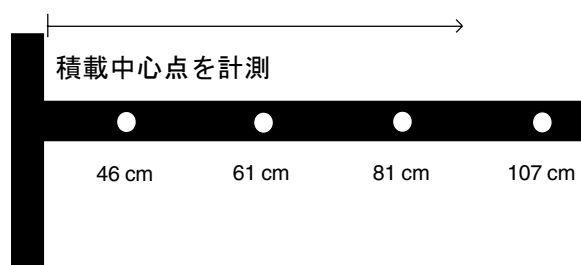
標準フォークおよび調節可能フォークの最大積載中心点に関しては、次ページの表を参照してください。

## 積載荷重量表

## ブーム

## 積荷配置手順

- 1 積荷の重量と積載中心点の場所を決定します。
- 2 下の表を参照し、ブームの位置において、機械が重量を持ち上げることができるかどうかを判断します。
- 3 積荷をブームのリフトシャックルに固定します。



## 最大積載中心点

(荷台の前方より計測)

標準フォーク	61 cm
調節可能フォーク	61 cm
ブーム	107 cm
積荷作業台	61 cm
パイプクレードル	46 cm
延長フォーク	107 cm

積載荷重量表																
積載中心点																
cm		36	41	46	51	56	61	66	71	76	81	86	91	97	102	107
<b>モデル</b>																
SLC-6	kg	295	277	256	234	213	193	175	159	143	129	118	107	98	89	82
SLC-12	kg	295	277	256	234	213	193	175	159	143	129	118	107	98	89	82
SLC-18	kg	295	277	256	234	213	193	175	157	141	125	113	102	91	82	73
SLC-24	kg	295	277	256	234	213	193	175	157	141	125	113	102	91	82	73

# ステッカー

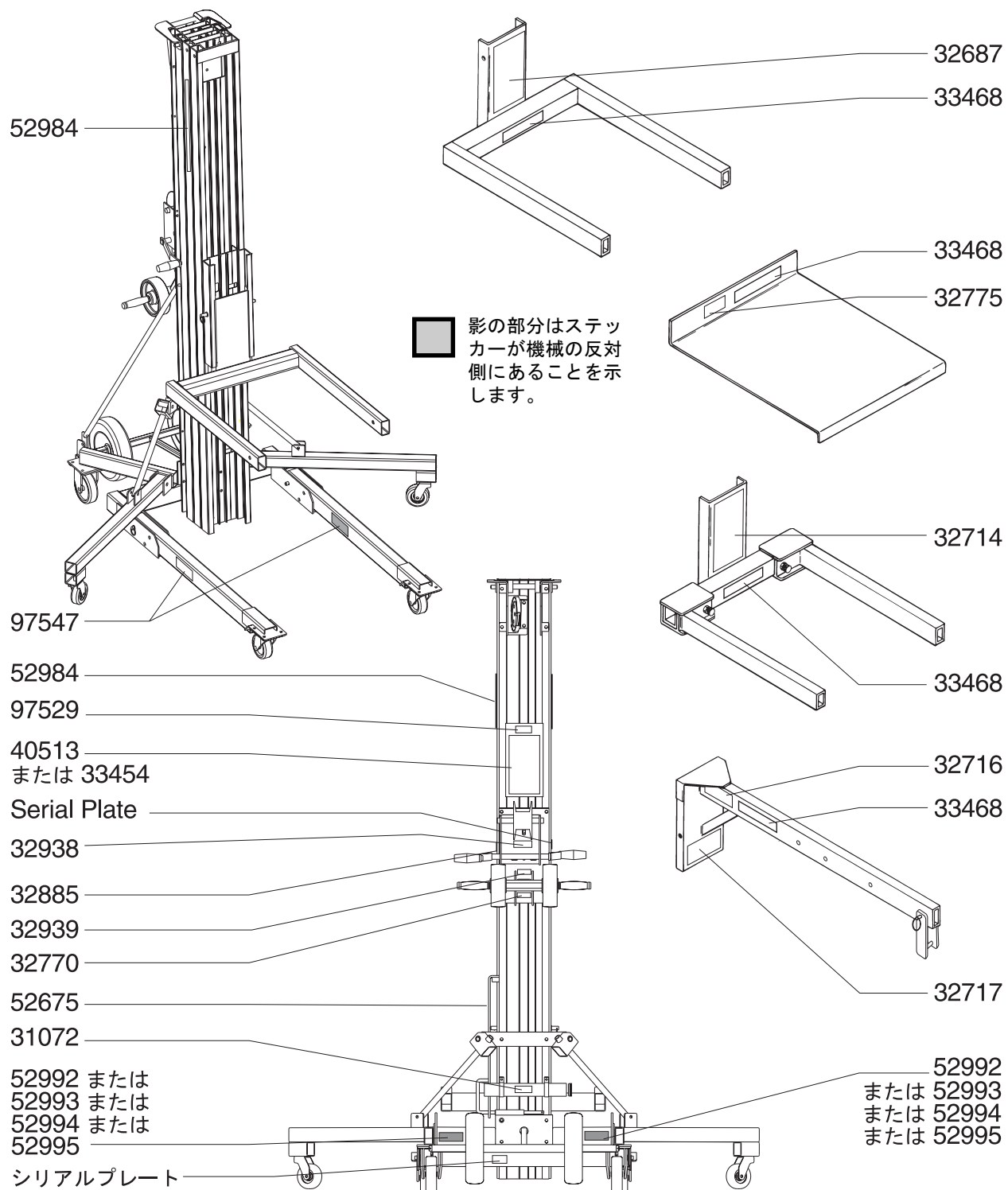
## 警告用語のついたステッカーの点検

機械に貼られているステッカーの警告用語やシンボルを確認します。ステッカーの文字がすべて読める状態で所定の位置に貼られていることを確認してください。

品番	名称	数量
31072JA	ラベル - 操作説明書保管場所	1
32687JA	警告 - 標準フォークの安全規則/ セットアップ	1
32714JA	警告 - 調節可能フォークの安全規則/ セットアップ	1
32716JA	注意 - ブームのセットアップ	1
32717JA	警告 - ブームの安全規則	1
32770JA	注意 - 2段式スピードシフトの操作指示	1
32775JA	警告 - 落下の危険、荷台	1
32885JA	警告 - 消音ウィンチ	1
32938JA	ラベル - このウィンチを使用	1
32939JA	警告 - ブレーキロック	1
33468JA	警告 - 乗車禁止	1
33545JA	警告 - 機械の安全規則/セットアップ (品番 9596-5288 以前の機種)	1

品番	名称	数量
40513JA	警告 - 機械の安全規則/セットアップ (品番 9596-5287 以降の機種)	1
52675JA	要注意 - 機械故障の危険	1
52984JA	外装 - Superlift Contractor ロゴ	2
52992JA	外装 - SLC-6	2
52993JA	外装 - SLC-12	2
52994JA	外装 - SLC-18	2
52995JA	外装 - SLC-24	2
97529JA	注意 - 人体への障害の危険	1
97547JA	危険 - 感電の危険	2

ステッカー



ステッカー

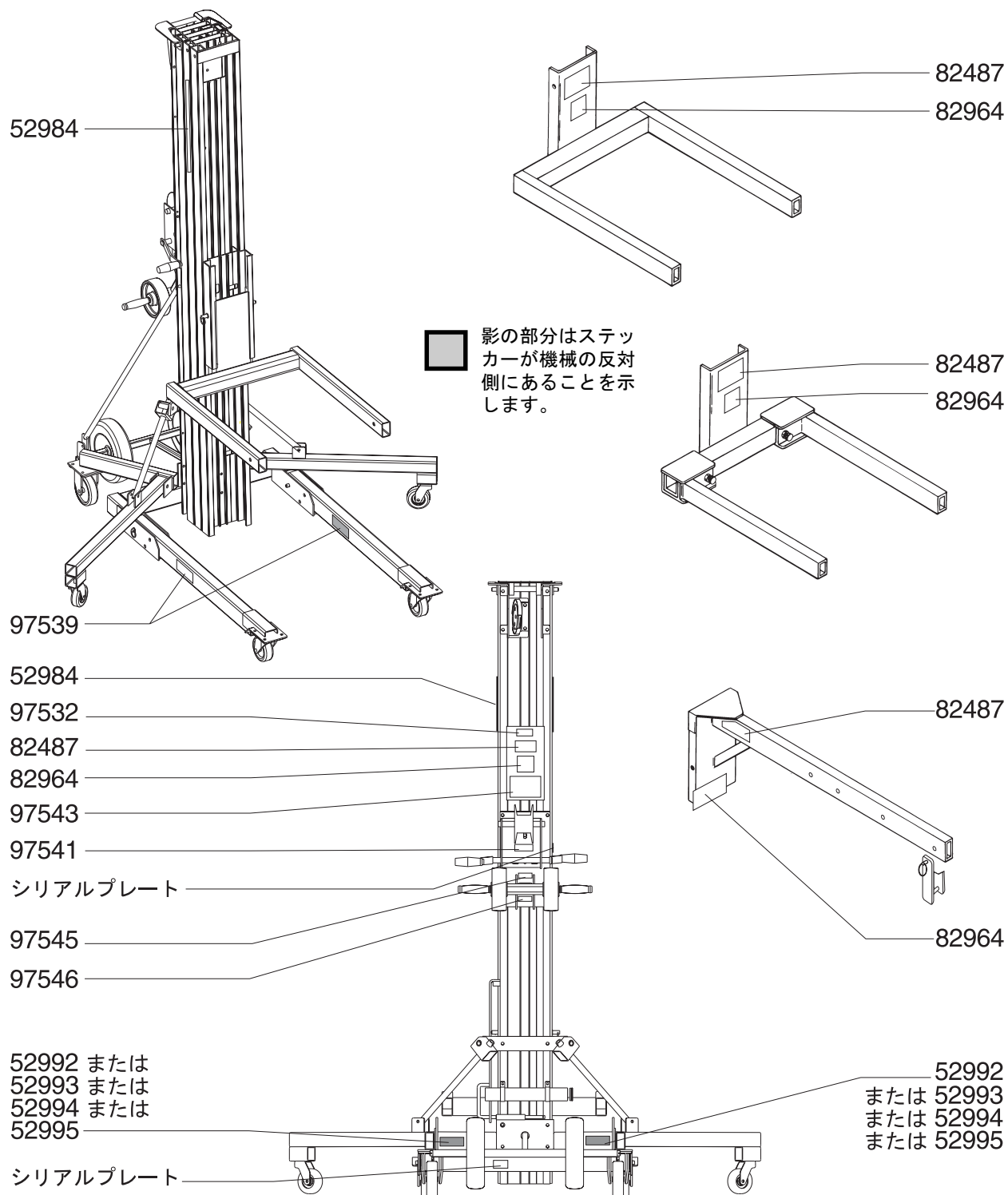
## シンボルのついたステッカーの点検

機械に貼られているステッカーの警告用語やシンボルを確認します。ステッカーの文字がすべて読める状態で所定の位置に貼られていることを確認してください。

品番	名称	数量
52984	外装 - Superlift Contractor ロゴ	2
52992	外装 - SLC-6	2
52993	外装 - SLC-12	2
52994	外装 - SLC-18	2
52995	外装 - SLC-24	2
82487	ラベル - 説明書を参照	1
82964	警告 - 乗車禁止	1

品番	名称	数量
97532	要注意 - 人体への傷害の危険	1
97539	危険 - 感電	2
97541	ラベル - このウィンチを使用すること	1
97543	警告 - 積載中心点表	1
97545	警告 - ブレーキロック	1
97546	注意 - 高速/低速シフト操作手順	1

ステッカー



# 輸送およびリフトの手順



## 輸送手順

### 必ず従うこと：

- ☑ 運搬車は平坦な地面に駐車してください。
- ☑ 機械を載せるときは、動かないよう輸送車両を固定してください。
- ☑ 車両の積載荷重量、積載位置、チェーンやストラップが機械の重量に十分に耐えうるものであることを確認してください。機械の重量についてはシリアルプレートをご覧ください。
- ☑ 機械の重量に十分に耐えることができるチェーンまたはストラップを使用して、輸送車に機械を固定してください。

## 機械の積載

積荷用アタッチメントを機械から外し、収納場所に安全装置が設置されていることを確認してください。

- 1 輸送用にロックするために、完全にキャリッジを下げます。
- 2 キャリッジ固定バーを荷台上に回転させます。
- 3 キャリッジ固定バーに触るまで荷台を上げます。
- 4 積載ホイールを任意の高さに調節します。ピンが正確に挿入されていることを確認してください。

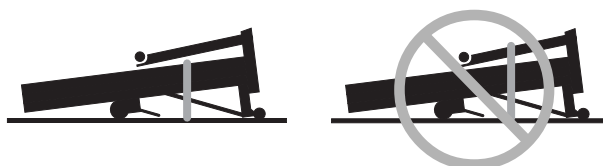
- 5 後方ベースのキャスターをロックします。



- 6 機械を運搬車に立てかけます。適切な手段をもって、運搬車へ機械を積載します。キャリッジが下方位置に固定されていることを確認してください。



- 7 最低1組のチェーンを使用して、機械をトラックの荷台に固定してください。ストラップまたはチェーンは、マスト柱に掛けてください。ストラップやチェーンを脚の部分に掛けると脚が損傷する場合があります。



- 8 機械を降ろすには、積み上げの方法と逆の順序で行ってください。

## クレーンによる機械の積載

脚と安全装置が収納場所にあることを確認してください。

機械に緩んでいたり固定されていない箇所がないか点検します。

後方マスト柱の上に取り付けられたリフト用金具を使います。

リフト用フックは、常に機械と逆に向くようにリフト用金具に通してください。





## 仕様

モデル	SLC-6	SLC-12	SLC-18	SLC-24	
高さ - 収納時	2.2 m	2.2 m	2.2 m	2.2 m	
幅	80 cm	80 cm	80 cm	80 cm	
幅 - 安全装置下降時 (搭載する場合)	1.7 m	1.7 m	1.7 m	1.7 m	
奥行き - 収納時	86.4 cm	86.4 cm	86.4 cm	86.4 cm	
高さ - 操作時	1.5 m	1.6 m	1.8 m	2 m	
地上最低高さ	50.8 mm	50.8 mm	50.8 mm	50.8 mm	
積載荷重量 36 cm 積載中心点 注記:他の積載中心点における積載荷重については、積載荷重量表のセクションを参照してください。	295 kg	295 kg	295 kg	295 kg	
正味重量	75 kg	93 kg	139 kg	170 kg	
機械による騒音 標準的な作業場での最大音量 (騒音レベル)	85 dB	85 dB	85 dB	85 dB	
<b>積荷用アタッチメント</b>	<b>高さ</b>	<b>幅</b>	<b>奥行き</b>	<b>正味重量</b>	
標準フォーク	71.1 cm	58.4 cm	6.4 cm	12 kg	
調節可能フォーク	69.9 cm	29.2 ~ 76.2 cm	6.4 cm	23.8 kg	
ブーム	1.1 m	3.8 cm	15.2 cm	15.6 kg	
パイプクレードル	69.9 cm	62.2 cm	15.2 cm	4.5 kg	
荷台	69.9 cm	58.4 cm	6.4 cm	12 kg	
延長フォーク (各)	76.2 cm	5.1 cm	7.6 cm	2 kg	
<b>寸法</b>	<b>SLC-6</b>	<b>SLC-12</b>	<b>SLC-18</b>	<b>SLC-24</b>	
標準フォーク	フォーク下降時	1.73 m	3.40 m	5.11 m	6.78 m
	フォーク上昇時	2.26 m	3.94 m	5.64 m	7.32 m
調節可能フォーク	フォーク下降時	1.73 m	3.40 m	5.11 m	6.78 m
	フォーク上昇時	2.26 m	3.94 m	5.64 m	7.32 m
ブーム	2.03 m	3.71 m	5.41 m	7.09 m	